

0. 文字

当言語の文字は、**対清音字**、**対濁音字**、**中立音字**、**半母音字**、**母音字**の五種類に分けられる。
又、順序, 文字, 音価, 名称は以下の通りである。

p	b	f	v	t	d	s	z	x	j
p	b	f	v	t	d	s	z	ʃ	ʒ
paf	baf	fat	vat	tas	das	sax	zax	xak	jak
k	g	m	n	c	r	l	w	y	i
k	g	m	n	r	ɹ	l	β	j	i
kap	gap	maf	naf	cat	rat	las	was	yax	ix
e	a	o	u	h	q				
e	a	o	u	h	ə				
ek	ak	op	up	haf	qf				

- ※cは原則として語頭に立たない。(母音が連続する場合のみ、後ろの母音の語頭に付けてもよい。)
- ※hとqは固有名詞以外では用いない。
- ※指示詞・数詞以外に二重母音は含まれない。
- ※母音字以外を総称して子音字という。

1. 在詞

指示代名詞、代名詞、名詞を在詞と呼ぶ。

1-1. 指示詞

必ず、語頭は大文字の母音字（事はL）、語末は"s"或いは"t"である。
以下に示すのは独立用法。係在用法は"a"を接尾。所有用法は"es"を接尾。

	単数	複数
一人称	As	Aos / Aes
二人称	Es	Eos

三人称	人間		生物		物		事	
	単数	複数	単数	複数	単数	複数	単数	複数
近称	Os	Oos	Is	Ios	Us	Uos	La	Lo
遠称	Ot	Oot	It	Iot	Ut	Uot	Le	Li

(事の指示代名詞には所有用法はない。)

1-2. 代名詞

必ず、語頭は母音字、語末は、"p, f, x, k"のどれかで終わる。
以下に示すのは独立用法。係在用法は"a"を接尾。所有用法は"es"を接尾。

	疑問	全体	部分	特定	選択	任意	譲歩	零
生物	Ap	Op	Ep	Up	Ip	Ax	Ox	Ex
非生物	Af	Of	Ef	Uf	If	Ak	Ok	Ek

1-3. 名詞

必ず対清音字で終わる。
但し、固有名詞は大文字で始め、接辞が付く場合は-で繋ぐ。
語末が対清音字でない場合は、-sを付け、接尾辞はこのsより後に付ける。

又、-ilを接尾すると所有用法、-olを接尾すると補語となる。

2. 述詞

動詞と状態詞を述詞と呼ぶ。

2-1. 動詞

必ず、対濁音字で終わる。繋辞と代動詞を除いて完全他動詞。
(繋辞(Øとして存在)不完全自動詞、代動詞(soz)は完全自動詞。)

2-2. 状態詞

状態詞には、独立形、係在形、係動形の3つの形がある。
全て後置修飾する。又、被修飾語に近いものほど意味は強い。

2-2-1. 独立形

語末は"o"。補語用法と係状用法の2つに分けられる。

- ① 補語用法 …補語となる用法。繋辞の後ろに置く。
- ② 係状用法 …状態詞を修飾する用法。

2-2-2. 係在形

いわゆる形容詞。語末は"a"。

在詞を修飾する。つまり、代名詞や指示代名詞も非限定的に修飾できる。

2-2-3. 係動形

いわゆる副詞。語末は"e"。動詞を修飾する。

3. 法詞

動詞の法を表す。語末は"n"。

直説法	(無標)
条件法	lin
命令法	nen
禁止法	min

←帰結節の動詞につく。

4. 態詞

動詞の態を表す。語末は"r"。

能動態	(無標)
受動態	der
中間態	nar

受動態では、主語と述語の位置が逆になる。

中間態では、他動詞が自動詞化する。

5. 時制詞

動詞の時制を表す。語末は"n"。

大過去	anan
-----	------

過去	an
現在	(en)
通時	un
未来	on
大未来	onon

←強調以外では省略

6. 相詞

動詞の相を表す。語末は"r"。

無相	(無標)
進行相	tor
完了相	mar
継続相	xur
将然相	sir
反復相	ker

7. 係詞

いわゆる前置詞。語末は"l"。

xalとfolは倒置、強調の場合のみ用いる。

又、係詞の語頭にaをつけると、係在用法となる。

属格はふつうeを使うが、後続語が母音で始まるとき、文末に置かれる場合はelを用いる。(e<el<nel)

主格	(xal)	～が
属格	e / el	～の
対格	(fol)	～を
与格	sul	～に
処格	til	～で
奪格	tol	～から
変格	xol	～まで
係格	lel	～の
様格	sal	～として
題格	kol	～について
欠格	del	～なしで
時格	kal	～に

具格	nul	～を使って
比格	jel	～より
手格	yul	～によって
状格	zel	～の状態
並格	mol	～しながら
保格	pol	～したまま
従格	kul	～につれて
共格	vel	～と共に
喩格	xal	～のように
由格	mul	～のせいで
奉格	fel	～の為
同格	nol	～である
量格	tel	～である

8. 接続詞

語末は"m"。

	強	弱	略式
接続	lom	om	,
順接	zom	som	„
逆接	vam	fam	
原因	bam	pam	
結果	gom	kom	
程度	dim	tim	
条件	zem	sem	
譲歩	jem	xem	

連言	am	※略式:&
選言	em	※略式:/

9. 句詞

toとneで挟む。

to ~ neは、名詞句/節を導く。

① neは文末では省略される。

- ② "〜"は完全文でなくても良い。(動名詞を作る場合や、主文と同じ要素が省略される場合。)
- ③ toをtaにすると形容詞句/節、teにすると副詞句/節となる。
- ※ 関係副詞の用法はない。係詞を後続の節内に残す。

10. 数詞

名詞にそのまま後置すると基数、語頭にaを付けて後置すると序数を表す。

単体で名詞として用いることはなく、名詞として用いる場合は"o 数詞 e"の形をとる。

0 xee	10 riu	20	riufe	=10*2
1 pia	11 riupia	30	riute	=10*3
2 fua	12 riufua	40	riuse	=10*4
3 tea	13 riutea	50	riuxe	=10*5
4 soa	14 riusoa	100	riufo	=10^2
5 xai	15 riuxai	150	riufo,riuxe	=10^2+10*5
6 kui	16 riukui	175	riufo,riume,xai	=10^2+10*7+5
7 mei	17 riumei	200	riufofe	=(10^2)*2
8 noi	18 riunoi	1000	riuto	=10^3
9 cau	19 riucau	10000	riuso	=10^4
		12345	pufutusuxai	
※赤字の数字を"原数字"という。		12345	ruito,ruitofe,ruifote,ruise,xai	
		3.14	tea-lot-pusoa	
		$\frac{1}{5}$	pia-atol-xai	

- ① 原数字を並べると足し算になる。3桁以上では","を間に挟む。
- ② 原数字の二重母音をeにして並べると掛け算になる。
- ③ 原数字の二重母音をoにすると、指数となる。
- ④ 掛け算は、その左にあるもの全体に掛かる。
- ⑤ 10000超の数字は、各位ごとに原数字で数字を読み上げる。その際、一の位以外、原数字の二重母音はuとなる。但し、10^nで表せる数は③で表す。
- ⑤' "ruito,ruitofe,ruifote,ruise,xai"のように表しても良い。
- ⑥ 小数は、小数点より左を上記の方法で表し、小数点をlotと読み上げ、小数点より右は⑤の方法で表す。
- ⑦ 分数は、"分子-atol-分母"と言う。

11. 感動詞

語末が"u"。

12. 補助詞

他の品詞では表せない微妙なニュアンスを付け足す。語末は"i"。

重要なものを上げておくと、否定の補助詞mi, 決定疑問の補助詞piなどがある。

miは動詞句の前、piは文頭または文末に置く。(文末に置くと確認の意味になる。)

13. 語順

SVO, Pr, NA, GNである。

が、文意が一通りに定まるならば、SVOでなくても良い。

又、大文字を用いるのは、指示詞、代名詞、固有名詞の語頭のみとする。

但し、法詞・態詞・時制詞・相詞については、"法態 動時相"の順に並べる。

14. 用語解説

係在用法 在詞を修飾する用法。指示詞、代名詞も、非限定的に修飾できる。

所有用法 所有代名詞にあたる用法。（「～のもの」と訳す。）

15. 敬語

動詞の直後にesiを置くと尊敬語、asiを置くと丁寧語になる。（謙讓語はない。）

又、敬称については、名前に-esiを後置する。

16. 補足

① ハイフンで始まる接尾語は、ハイフンを付ける代わりに上付き文字でも表せる。